わがまちの「ナローゲージ鉄道」へどうぞ

岡本　勉（平19・桑名）

三重県の最北端に位置する「いなべ市」をご紹介します。“いなべ”の音感から愛知県の稲武町（いなぶちょう・現豊田市）とよく混同されることがあります。“いなべ”は元々「員弁」ですが、読み難いことから平成15年の員弁郡内4町合併を機にひらがな読みに改称、いなべ市となりました。員弁は古く奈良時代に遡り、物部氏の子孫で東大寺大仏殿を造営した名工、猪名部(いなべ)百世がこの地に居住し、転じて「員弁」になったと伝えられています。人口約47千人（男女ほぼ同数）、高齢化率23.1%（全国平均並）。

先ず今回は、いなべ市を縦断する鉄道、市民生活に欠かせない「三岐鉄道北勢線」をご紹介します。この鉄道は、ナロー（幅が狭い）ゲージ(軌間)といって線路幅が極めて狭軌なのが特徴です。区間は、西桑名駅(桑名市)から阿下喜駅(いなべ市)間20.4kmを、軌道幅が狭いため、ゆっくりと約50分かけて運行しています。大正3年（1914年）に開業〔全線開通は昭和6年（1931年）〕し、軌道幅762mmのナローゲージで、21世紀の今日まで1世紀にわたり走り続けている貴重な生きた産業遺産です。

大正時代には全国で300路線も建設された762mmゲージの鉄道は、ほとんどが廃線となり、現在は、近鉄内部・八王子線、期間限定の黒部峡谷鉄道（通称：トロッコ電車）、そして三岐鉄道北勢線の3路線だけが運行されていて、日本の鉄道史上、貴重な文化的遺産です。沿線自治体や住民が運行存続に取組み、最近では、様々なイベントが開催され、功を奏して老若男女、鉄道ファン・マニアの注目を浴び全国から沢山の方が訪れています。車輌は黄色で、この鉄道のための唄「黄色いガタンコー」も創曲されています。762mmの狭軌道ですから、向かい合う座席は文字通り膝を着き合わせるほどですが、新たな出会いもあることでしょう。終点の阿下喜駅を降りると、「阿下喜温泉」でゆっくりとくつろぐこともできます。高速の鉄道とは違って、城下町桑名からのどかな田園風景を眺めながら、ゆったりした気分でご家族・孫・ひ孫とともにナローゲージ鉄道を楽しまれてはいかがでしょうか。

〔参考〕軌道幅　新幹線・近鉄線1435mm　JR線1067mm

北勢線　輸送実績年間230万人で上昇中（過去最高は600万人を輸送）イベント＝お見合い電車、クリスマスサンタ電車、コスモス電車など。